

「貝の建築学」のサイトより

昨年末に暮れにサザエ堂の記事を書くにあたり検索していたらこの「貝の建築学」のサイトを見つけました。興味をひいたので開いてみました。

『貝の建築学 ARCHITECTURE OF SHELLS』という展示を東京大学総合研究博物館小石川分館／建築ミュージアムで3月15日（日）まで無料で開催されているという。



説明文では、螺旋は生物が作り出す不思議な構造の一つです。その代表例が巻貝であり、極めて規則的に成長する。……。貝は貝殻をみずから形成し。その中で暮らしている。そのため、貝殻は貝の建築物と見なすことができる。……。

本特別展示では建築物としての観点から貝殻の形の統一性と多様性を示すことを目的として、世界各地から収集された貝殻標本を多数公開する。特に貝殻の内部構造を示す切断標本は合計100種以上を制作しており、前例のない規模で公開する。とある。

面白そうですので行ってみたいと思っています。

幼少のころ新潟の海岸の町に住んでいたことがありました。冬になると砂浜に15センチ前後の大きさの茶と白の斑模様をした巻貝の殻が打ち寄せられていました。拾って部屋に飾ったり、水に浮かべたりして遊んだりしていまし

た。貝殻は、やや透けるような薄さで欠けた貝殻がよく浜に打ち寄せられていました。

その後、その貝殻は貝ではなくオウムガイの殻ということが解りました。いま「ウィキペディア」を読んでみるとオウムガイは不思議な生物で頭足類で、南太平洋～オーストラリア近海に生息し100-600mの深海に棲んでいる。



オウムガイの断面

↑触手を伸ばしたオオベソオウムガイ

死ぬと殻の空洞の奥が浮力となり海流に乗って日本沿岸にも漂着すると書かれていました。そういうことでしたか。ようやく謎が解けました。

建築では、貝からヒントを経て設計されたシェル構造（螺旋、円筒、球面、折板、双曲放物面、HPシェルなど）の建物が様々にあります。

ランダムに思い出してみると。

印象深いのは、巻貝の螺旋状をしたFLライトのグッゲンハイム美術館。

ヨットの帆を形にしたウッツンのシドニーオペラハウス。

丹下健三の十字形をした東京カテドラル聖マリア大聖堂。

二枚貝を広げたような（蝶のような）エーロ・サーリネンのジョン・F・ケネディ国際空港第5ターミナル。

アントニ・ガウディのサグラダ・ファミリアなどがある。

			
グッゲンハイム美術館	シドニー・オペラハウス	東京カテドラル聖マリア大聖堂	ジョン・F・ケネディ国際空港
			
会津さざえ堂	貝類展示館海のギャラリー 設計：林雅子	ロンシャンの礼拝堂 シェル構造の屋根 taisei.gallery	東京大学弥生講堂アネックス 木質構造のHPシェル構造
写真はウィキペディア&THE SEASHELL GALLERY。アネックス 東京大学弥生講堂 一条ホール/アネックスより			